

## 大磯町立大磯中学校

研究テーマ：学ぶことで仲間とつながり、社会とつながり、自分を高められる授業づくり

### 1 実践の目的

本校は、学校行事や生徒会活動が活発で、学習にも意欲的な生徒が多く在籍する。一方、教室に居場所を感じられなく、保健室や学習支援室などに居場所を求める生徒や欠席が多い生徒も少数ではあるが、一定数在籍する。また、クラスメイトとの関係をうまく築くことができず、トラブルやいじめなどの生徒指導事案に発展することもある。このような生徒たちが教室の中に居場所を感じ、ともに学ぶためにどのような授業づくりをしていくことが必要なのか。生徒が授業を通して、学習内容だけでなく人との関わり方や学び方を学ぶ授業とはどのようなものなのか。

本実践では、すべての生徒が安心して学び合い、教室に居場所を感じられる授業づくりを目指して行ってきた。その中でも「探究と協同の学習」「同僚性の構築」をキーワードに授業づくりと研修システムづくりを行った。

### 2 実践の内容

#### (1) 研修の主な内容と年間計画

研修の主な内容は、「授業公開」と「リフレクション(省察)」である。年度当初にすべての教員に授業公開することをお願いし、その公開した授業から学び合う研修スタイルで実践してきた。すべての教員に授業公開を義務付けたのは公平・平等な研修にするためである。一部のすばらしいといわれ

る)授業や若手の教員のための授業公開を行っているのは、安心して授業を開くことができなからである。どの教員の授業からも学び合うことで、多様な経験・経歴を持つ職員集団の同僚性の構築につながるはずである。年間を通して、全職員の授業公開を行い、その授業から学んできた。

#### 【年間計画】

- 4月 全体研修(研修概要についての説明)  
授業検討会(教科)
- 5月 第1回全体研修会(3年・英語)  
※講師招聘(1回目)
- 6月 授業検討会(学年)
- 9月 第2回全体研修会(1年・国語)  
※講師招聘(2回目)
- 10月 授業検討会(学年)
- 11月 授業検討会(教科)
- 1月 授業検討会(学年)  
外部の研究会への参加
- 2月 第3回全体研修会(2年)  
年間の研修会の振り返り

→上記の研修会以外に初任研や臨任研などの公的研修、地区の研究会での授業公開などを活用し、すべての教員が授業を開く体制を整えた。

#### (2) 研修方法の工夫

授業公開を行う研修会では授業を公開する教員にとっての自分自身の授業を振り返る機会にもなるが、それ以上に授業の参観者も自分自身の実践を見直す機会にもなる。

そのため、研修会では授業のふりかえりであるリフレクションの時間を重視した。また授業者には授業準備の負担を減らし、授業の計画に縛られずに、授業者が即興的に応答できる余地を残すために指導案の作成は簡単なものにした。また公開授業後のリフレクションでは、次のような約束ごとをもとに進めた。

- ①教室で起きた事実をもとに自分が学んだことを自分の言葉で語る。
- ②授業の良し悪しや質問は行わない。持論は語らない。
- ③具体的な生徒の個人名を出しながら、エピソードで語る。
- ④参観者は全員発言する。

この4点である。全体研修会だけでなく、教科や学年での授業検討会でもこの約束事をもとに実施した。全体研修会ではすべての教員が参加するが、教科での検討会や公的研修での授業公開は参加者が限られる。そのような場合も「校内研だより」を配付する形で授業の様子やふりかえりの内容を職員間で共有している。

### 3 実践の成果

3回の全体研修会を通して、1番の大きな変化はリフレクションでの1人ひとりの教員の発言の質の向上である。1回目の研修会では授業者の授業の工夫に対するコメントや自分の教科だったらこうするといった持論が多くみられたが、2回目から生徒の個人名、3回目から生徒同士の関係についての発言が中心になってきた。その中で、支援が必要な生徒が周りの生徒とどのようにつながり、教室の中で学んでいるかなど

の視点で語る教員もいて、授業を見る視野の広がりが感じられた。

昨年度末に行ったアンケートでは、今後さらに「学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学び」が生徒に必要であり、教科を問わず多様な教員の授業から学び合う時間が必要だとの回答が多く得られた。

授業公開を継続することを通して、学年内の教員同士で授業を参観し合う文化ができたり、グループやペアなどの協同的な学習を取り入れる教員、ICT 機器を活用したふりかえりを実践する教員が増えるなどのよい効果が見られた。

### 4 今後の展開

今年度は「すべての教員が授業公開をする」に加え校内研修システムの構築という2つの目標を達成することができたので、次年度は授業の質、リフレクションの質をさらに向上させることが目標である。個々の教員の授業は工夫されていて、協議会での生徒を見る視点もすばらしいが、それが集団の知、集団の視点になっていないことが課題である。課題のある生徒がどうやったら教室の中で仲間との関係を築き、教科の内容に向かうことができるか。リフレクションを通して深めることができるかが次年度の研修の課題である。

また生徒を仲間とつなぎ、夢中にさせる課題づくりをするためには教科の専門性が必要である。教科の専門性を向上するために外部の専門家との協同も研修システムに取り入れていきたい。次年度は学校全体のテーマだけでなく、1人ひとりの教員が個人テーマを設定し、研修会の中で1人ひとりの授業づくりを支える場にしていきたい。